



そして令和4年度

武佐小Project始動

2022



いつもやっていることやん！ 消費者教育



教師も子どももワクワクする消費者教育を目指して取り組んだ事例報告です。
この発信が少しでもこれからの消費者教育のヒントになれば幸いです。

武佐小学校校長
村井孝一郎



武佐小project season1 3年生と5年生の社会科の授業で ちょっと意識して“消費者教育”やってみた！

近江八幡市の消費者教育を通して育みたい資質・能力

■ 知識及び技能

- ① 消費がもつ影響への理解
- ② 情報社会のルールや情報モラルへの理解
- ③ 商品等の安全への理解
- ④ 危険を回避する方法への理解
- ⑤ 契約等への理解

■ 思考力・判断力・表現力など

- ⑥ 消費生活情報に対して批判的に思考する力
- ⑦ 適切に意思決定をする力
- ⑧ 処理した消費生活情報を伝え合う力

■ 学びに向かう力、人間性など

- ⑨ 持続可能な消費を実践しようとする事
- ⑩ これからの生活を設計・管理しようとする事
- ⑪ 他者と協働して解決に向け行動しようとする事



商品を選ぶとき、正解はありません。自身の状況や価値観に照らし合わせて何が一番良いかを考えて選ぶ力が大切です。

おばあちゃんが来るから今日はお鍋！みんなはどの豆腐を選ぶかな？



3

坂本 潤 教諭
社会科
「わたしたちの暮らしとまちではたらく人々」

消費者として身につけたい力

お豆腐の選択を通して、生産者や販売者の工夫と消費が持つ影響を理解し、場に応じて適切に意思決定できる力をつけます

フレンドマートD武佐店 店長さんのお話

成田豆腐店さんのお話

おいしいお豆腐をつくるため季節によって温度を調整しています

同じ種類でも、いろんな値段の商品があります

せっかくおばあちゃんが来るんやしな…

一番やすいのがいい!!!

あちこちからきているんや…外国からもきてるし

おいしそう食べてみたいな…

地元の野菜がたくさん！



きてカー一見学



<武佐学区>



<近江八幡市>



今日食べ切るから賞味期限が今日まででもいいな…お得だし

専門店の新鮮なお豆腐を食べさせてあげたい

外国のものばかり買ってしまうと日本の工場つぶれてしまう。日本のものを多く買う！

どこから来ているのかをもっと見たい。地球の反対の国とも貿易をしているのかな？

貿易のはたらきを学習して考えたことや感じたこと、疑問に感じたことは？



近野 洋平 教諭
社会科
「日本の貿易とこれからの工業生産」

消費者として身につけたい力

経済がグローバル化する中、ものづくりに携わる人の努力や思いを通して、消費が持つ影響を理解し、批判的に思考する力をつけます

工業製品のこれからを話し合う



もっと日本の製品のよさを外国の人に知ってほしいな

環境のことを考えて開発されているなんて知らなかった

こんなに小さいものに工夫がいっぱいだ!



プラモデルを教材とした授業



Made in Chinaって書いてあるのが多いな…

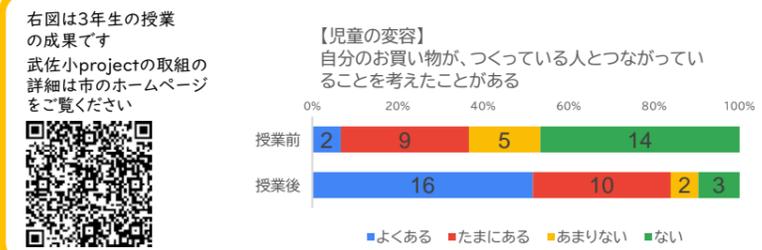
外国のあちこちの街に日本車がある…



四日市ポートビル見学

一度にたくさん輸出や輸入をしているんだね

Googleマップのストリートビューで世界の街の日本車を探そう!



1 2



Projectメンバー全員集合！



● やってみてどうでしたか？

子どもたちが日常で使っている物や着ている服はどの国で作られているのか、じっくり考える機会はなかなかありません。今回の単元はmade in〇〇を見つけることによって、身近な生活用品が海外で生産されていることを意識することができました。最終的には輸入品には輸送コストがかかり、CO₂排出が伴うことを理解した上で、商品選びをしてくれることを期待しています。

5年担任教諭 近野洋平

学習前、子どもたちの商品を選ぶ視点は「欲しいか欲しくないか」、「お小遣いで買える値段かどうか」の2つでした。学習を進める中で、産地や消費期限、内容量などの新たな視点を知り、本時ではその新たな視点も取り入れながら一所懸命考えて、ニーズにあったものを選ぶうとする姿が見られました。今後も、子どもたちが消費者の一人として良く考えて意思決定ができるようになるために様々な場面で消費者教育を継続していくことが大切だと感じました。

3年担任教諭 山登由希子

消費者教育支援センターの教材を活用することで、家庭科『生活を支えるお金と物』の学習を主体的・協働的に楽しく学ぶことができました。子どもたちには、これからも消費者の一人として物事を多面的に捉え、多くの情報からよりよい判断をする力を磨いていって欲しいと思います。

5年家庭科担当教諭 河瀬朗子

3年生にとっては初めての社会科、はじめての消費者教育。「買い物」という身近な場面を教材化し、消費について考えました。同じ商品でも、産地や賞味期限や製法が違えば、値段も変わります。どの商品にも良さがある、どれを選ぶかは一人ひとりの考え次第だと、実感できるような学習になりました。消費者教育は子どもにとって、とても身近な学習で、子どもたちの活動を活性化させるものでした。

3年社会科担当教諭 坂本潤

『消費者教育』って何するの？からのスタート。でも今では「『消費者教育』は、いつもやっていることやん！」という意識に変わりました。自立した消費者の育成を目的に「小学校というステージでもできることはたくさんあるんだ！」と実感しました。

教務主任教諭 犬丸直也

● 文部科学省主催「消費者教育フェスタin浜松」参加レポート！

令和5年1月16日浜松市で開催された消費者教育フェスタに参加しました。学校・地域に求められる学びのあり方について講演を聞き、多様な立場の方と対話をする機会となりました。

平田オリザ先生の基調講演の中でこんな言葉が印象に残っています。「『どこで学ぶか』から『誰と学ぶか』へシフトチェンジするべき。」「いろんな人と出会い語り合うことで、多様性を認める意識が向上する。」消費者教育の中にも主体性や対話性、多様性が求められていることを実感しました。

消費者を取り巻く社会環境は大きく変化しています。来年度も武佐小学校の子どもたちとともに、様々な教科や活動を通じて、継続的に学びを深めていきたいと思っています。

教務主任教諭 犬丸直也

一般的にイメージされているアフリカの各国の様子が現在ではもはや別物になっており、フェアトレードという言葉も一面的に捉えるべきではないというお話を聞きました。私たちは消費という行動で世の中に意見を出すことができるものの、まずは確かな知識を得ることを大切にしていきたいと思いました。

指導主事 岡本賢治

